

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・38〉 いわき市立三和小学校
〈実施日〉	平成28年7月13日(水)
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()
〈実践内容〉	第1学年 「ほうしゃせんってなんだろう」 ○ ねらい 「身の回りや自然界に存在する放射線の性質について知る」 ○ 授業の流れ ① スイセンから出ている放射線を写した写真を掲示し、本時の学習のねらいをつかむ。 ② 「目に見えない」「ものをとおりぬける」といった放射線の性質を学ぶ。 ③ 目に見えていなくても、放射線がある中で生活しており、測定器を使って測ることができることを知る。 ④ 感想発表を行う。 ※小学生のための放射線副読本・福島県教育委員会作成DVDを活用した。 《指導用スライドの一例と授業の様子》
〈成果〉	・スライドを作成したことにより、視覚的に訴えることができた。 ・目に見えなくても放射線が身の回りに存在することを知ることができた。
〈課題〉	・震災当時の記憶がないため、放射線についての認知度は低かった。低学年から継続的に学習することによって、科学的な見方・考え方の素地を育む必要があると感じた。
資料作成担当者職(養護教諭)氏名(小山 奈帆)	学校電話番号(86-2032)

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)